

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	らじえむ		
○保護者評価実施期間	2025/12/1		2025/12/31
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2026年1月1日		2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月27日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性に合わせた専門性のある支援	子どもの特性やその日の様子に合わせて柔軟に対応できるよう、職員全員に徹底している。 支援員の人数を多く確保し、子ども達一人一人にきめ細やかな支援、関わりができるようにしている。 安心して子ども達が過ごせるように、受容的に関わることをチームとして意識している。	現在の取り組みを継続できるように環境を整える。 (人員配置、支援員の育成など) 研修や事例検討などを増やし、チームでの対応力、支援者自身の資質向上を目指す。
2	保護者との日々の連絡調整	LINEやメールなど保護者様が連絡を取りやすい方法で連絡調整を行っている。送迎やイベント等の前には連絡事項を再度お知らせしている。	現状の取り組みを継続していく。
3	様々な経験・体験が生まれる活動プログラム	調理体験、制作活動、ゲームを取り入れたソーシャルスキルトレーニング、運動などのプログラムを毎月変えながら取り組んでいる。	子ども達からやりたいことを募り、どのように取り組めばよいかをみんなで計画を立てるなど、子ども達が主体となって活動する機会を設ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の児童施設や地域の他の子どもとの交流。	中学生・高校生の利用者が多く、地域の学校に通われているため、注目を浴びたくないという児童が多いため。	法人のイベントとしてオープン参加型の文化祭などを区民センターなどで開催している。デイサービスに通所している子ども達が出店ブースを担当した際には、地域の子どもの交流ができています。 ただし、同年代の児童や知らない人への関わりに不安を持つ児童もいるため、慎重に検討する必要があります。
2	保護者交流会などによる家族への支援。	事業所として児童へのアプローチを重視して取り組んできた。一人一人の児童に手厚く対応しているため、保護者交流会などの企画ができずにいた。	今年度はイベントの開催が多く、保護者交流会等の実施ができなかった。 今後は業務内容を見直し、保護者交流会や情報共有の場、研修会などの定期的な開催を検討する。
3	非常事態に備えた訓練や対応の周知。	避難訓練等、活動中に行っていることを周知しているが、内容について詳しく分かる物を提供できていない。	安全計画や避難訓練の内容などが分かりやすいものを利用者、保護者に周知・提供していく。